

第6回 上質な寄港地観光の造成に向けた意見交換会概要

(ロイヤル・カリビアン・インターナショナル社)

- ロイヤル・カリビアン・インターナショナル社バート・ヘルナンデス上級副社長兼中国社長より、スピーチが行われた。
 - 日本は海外からも人気が高い魅力的な寄港地。
 - これまでチャータービジネスの形で中国市場を開拓してきたが、近年は自主販売への切り替えを進めている。これと併せて、中国人ゲストだけでなく欧米からインターナショナルゲストの開拓を進め、更には従来よりも長いアイテナリーによる首都圏や関西への寄港増加等によりゲストの体験を向上させるよう取り組んでいるところ。
 - リピーターを獲得する観点からも、今後3～5年の間に日本の寄港地、更には寄港そのものを大きく増やす予定であり、こうした取り組みを進める上では上質な寄港地観光プログラムの造成が重要となっている。

- 当日プレゼンテーションを行った各港（横浜港、大阪港、鹿児島港及び石垣港）からは、特別な経験が出来る独自のツアーの提案が行われた。

- 下司港湾局長より、各港湾と船社に対してコメントがあった。
 - 各港湾は、リピーターを確保するため、外国語による情報提供やキャッシュレス決済、free-wifiスポットの拡張、周辺地域との連携など、受け入れ体制を更に充実させて欲しい。
 - 船社は、ゲストの属性やツアーの販売状況などの情報を事前に各港湾に提供し、受け入れ体制を確保しやすいように配慮して欲しい。